



# 農作業メモ

## トラクタの事故に関する

## 安全対策のポイント

毎年、国及び埼玉県では、春と秋の農繁期に「農作業安全運動」を推進しています。

しかしながら、全国で毎年約350件の死亡事故が発生し続けており、平成27年は338件となっています。

今回は、農業機械作業による死亡事故において最も件数の多かったトラクタについて、事故の例と安全対策のポイントをお知らせします。

### 1 走行中の転倒・転落

トラクタ事故の内、機械の転落・転倒によるものが71.3%と、最も多くなっています。

(1)安全キャブ・フレームのあるトラクタを使用し、シートベルト、ヘルメット着用を徹底する

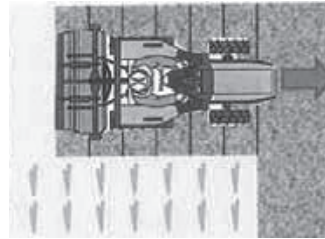
安全キャブ・フレーム装着車でもシートベルト、ヘルメットを着用しな

かったことで死亡事故が発生しています。

(2)作業環境を確認し、危険性に配慮する。

ほ場の出入り時の傾斜やほ場の端から法面に転落するケースが多く報告されています。

路肩や水路近くでのトラクタ運転は慎重にしましょう。また、路肩が明確になるよう



作業機を下げて、傾斜に対して直角の向きで入退出しましょう。

に農道脇の草刈りを行い、危険な場所にはポール等の目印を立てましょう。



危険が潜む場所は草刈りで見通しをよくしましょう。

(3)ブレーキペダルの連結を確認する

ブレーキの連結ロックを忘れると片ブレーキで簡単に転倒してしまいます。作業終了後ほ場を出る前にブレーキペダルの連結を確認しましょう。

### 2 作業機の取替・修理時の事故

作業機の着脱時に、作業手順を知らず、作業機が落下、下敷きになるという事故が起こっています。作業機の取替や整備の手順について確認しましょう。

### 3 乗降中にトラクタから転落

トラクタが大型化し車高が高くなつたために「落ちる」事故が発生しています。特に、前向きに降りるとトラク

タから転落したり、転倒する危険性があるため必ず後ろ向きに降りましょう。また、降りる場所に石が無い、滑りやすいか等周囲の状況を確認しましょう。滑らない履物を履くことも重要です。

### 4 接触・巻き込まれ

PTOを切らずに、ユニバーサルジョイントやロータリなどに巻き込まれたり接触したりする事故が起こっています。修理や点検作業時はエンジンを停止しましょう。

### 5 最後に

農業機械の定期的な安全点検（始業点検、終業点検）や農閑期の機械整備を行いましょう。また、日頃のヒヤリ・ハット体験を家族や仲間と話し合い、危険の予知や危険防止の訓練をしましょう。さらに万が一の事故に備え、どんなに近くでも携帯電話は持ち歩くようにしましょう。

合言葉は「少しだから大丈夫」を

「少しだけど要注意」へ

(大里農林振興センター 農業支援部)